

第2回日本ツメガエル研究集会（平成20年5月27日） 報告

昨年8月の北海道定山溪での第1回日本ツメガエル研究集会（世話人：北海道大学・福井先生）に引き続き、今年の5月に第2回日本ツメガエル研究集会が行われました。今回の研究集会は、第41回の日本発生生物学会（徳島）の若手ワークショップに採択され、「第2回日本ツメガエル研究集会：ツメガエルが拓く胚発生・形態形成研究の新展開」として開催されました。

演題に先立ち、今回の発生生物学会に Plenary lecturer として招待された UCLA の Eddy M De Robertis 博士より、Xenopus 研究の歴史についての概説が行われました。引き続き、若手 PI、ポストドク、大学院生によって一般演題（11 演題）の発表がありました。発表は Wnt、BMP シグナル、形態形成、細胞周期と細胞分化、性決定・PGC、ゲノムサイエンスなど多岐にわたり、伝統的な胚操作から最新のイメージング技術、リバーズジェネティクスの実験が紹介され、タイトルの通り日本の若手研究者によるツメガエル研究の広がりを感じさせる内容でした。この研究集会の参加人数は 100 名を超え、質疑応答も非常に活発に行われ、予定時間（17:00–21:00）ギリギリに集会は終了しました。

今回の研究集会は、発生生物学会の若手ワークショップ（合計4）のひとつとして行われたこと、ツメガエル研究者以外からの参加者が多かったことなどから、ツメガエル研究者の情報収集・交換の場としてだけではなく、発生生物学会にツメガエル研究を広くアピールする良い機会になったのではないかと思います。この研究集会を通じて、ひとりでも多くの方がツメガエル研究を志し、ツメガエル研究がますます発展することを期待したいと思います。なお、来年は広島大学・鈴木先生のお世話で第3回研究集会が行われる予定です。

平成20年6月

第2回日本ツメガエル研究集会

世話人 渡部稔（徳島大学大学院 SAS 研究部）

